

研究計画概要

助成年度・種別	2022年度 若手研究助成
研究者	中田 友貴
所属	立命館大学
研究テーマ	司法面接を用いた被害者聴取が裁判員の判断に及ぼす影響
研究計画概要	<p>児童の被害者の心理的負担を考慮した司法面接は、我が国でも実施件数は年々増加傾向である。知的障害者への適応も検討されており、今後さらなる普及が見込まれる。一方で公判で証拠として利用される際には、被疑者の取調べ録画と同様のバイアスが生じる可能性があるが、検証されていない。また被害者への取調べは専門性が高くなるほど、捜査機関における人的、環境的な要因から実施が難しくなる。そのような課題の解決のために、アバターを用いた取調べによる解決が考えられる。</p> <p>そこで本研究では、司法面接の実態と刑事司法で司法面接の記録映像が扱われる際の問題点について実験的に検討を行い、そしてアバターを用いた新たな聴取手法の検証を行う。</p> <p>本研究により、司法面接を公判で利用する際に、裁判官・裁判員の適切な判断を行うための教育や手続きにつながる。またアバターを用いた聴取手法により犯罪捜査における人間的・要因的な問題の解消や正確な情報の獲得による高度な捜査の実現が期待されるが、将来的に生じるバイアスや法的な課題についての提言を目指す。</p>
選考委員からのコメント	<p>裁判員裁判は、定着し問題も克服されたように見えるが、児童への司法面接の問題は、まだ課題が残っている。そして、裁判員裁判制度においては、「中核的問題」といっても課題ではない。現実の(裁判員)裁判のデータ・経験を踏まえて、地に足のついた研究が期待できると評価した。</p>